

**令和7年度事業報告**  
～第4次中期経営計画成果指標達成率を中心として～

令和7年度は、法人の中期経営計画の4年目として、各事業所における利用者支援の充実に努めながら、成果指標の達成に向けての取組を進めた。

ウインディ広瀬川では、施設の大規模改修に伴う仮移転を令和7年6月に実施し、円滑な事業継続に取り組んだ。パル三居沢においては、令和8年度末の閉所に向け利用者及び家族に向けて丁寧に説明を行い、必要な対応を進めた。ほっとすぺーすにおいても、パル三居沢閉所に伴う事業所移転に向けて仙台市担当課との協議を進めた。

パルいずみにおいては、令和7年8月から在宅支援を導入したほか、自主製品の売上げが好調で、作業工賃の大幅な増額につながった。

法人の公益的取組について、令和7年度は関係機関との連携を通して、地域における精神障害(者)の理解促進を目的とした出前講座を2回実施することができた。

さらに、各委員会活動を通じた取り組みとして、安全対策委員会を中心にハラスメント対策の充実に回り、広報委員会を中心としてInstagramの導入やホームページのリニューアルに向けた検討を進めた。また、令和7年5月に「第五次中期経営計画検討委員会」を設置し、延べ11回の委員会を開催し、計画(案)を策定した。

## I 精神障害者支援の推進

### 1. 自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業(ウインディ広瀬川 定員20名) ※( )内は前年度の数値

実施項目		成果指標	実績	達成度	
1. 入院からの自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業 新規利用者数		7人	1人 (7人)	14%	
入所申込から時間を掛けず、スピーディに手続きを進められるよう調整したり、病棟に出向いたインテーク面接の実施、利用者や医療機関の事情等に合わせて体験利用期間を設定するなど柔軟な対応を行い、4月に新規利用者3名(うち入院から1名)を受け入れた。しかし、6月の大規模改修工事に伴う泉区八乙女への仮移転により、年間を通じた受入人数の伸びに影響した。					
2. 生活訓練から地域生活への移行者数(ウインディ広瀬川)		8人	8人 (6人)	100%	
グループホームへ4名、自宅復帰が3名、単身生活へ1名が移行した。グループホーム移行については、見学及び体験利用等の調整、送迎対応を行ない、障害者相談支援事業所等と連携を図りながらスムーズな移行を支援した。単身生活移行者についても住居探しの同行支援、引っ越し等の対応や必要物品の購入等についてサポートし、丁寧な地域移行支援に努めた。地域移行後も3か月間は居住先への訪問を実施し、支援者と連携を図りながら、利用者の希望や心配に寄り添い、アフターフォローを実施した。					
3. ウインディ 広瀬川	自立訓練(生活訓練)	1日平均利用者数	16人	9.1人 (11.1人)	57%
	宿泊型自立訓練	1日平均利用者数	16人	9.1人 (11.2人)	57%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉区八乙女への仮移転後は居室についているトイレ・お風呂掃除を毎週実施。また、健康維持のための周辺散歩など現状の生活環境に合わせたプログラムや、対話やコミュニケーションに重点を置いたプログラムを継続している。年末には、その年の出来事やニュースを振り返りながら「今年の漢字」を予想するプログラムを実施したり、新年には初詣や凧あげを行うなど季節行事を取り入れながら、利用者一人ひとりの興味・関心を広げ、主体的に参加してもらえるよう努めた。</li> <li>・新規利用者の利用促進のため、広報紙を配布しながら医療機関や相談支援事業所、訪問看護事業所を訪問し、PR活動を行った。</li> </ul>					
4. 短期入所事業延べ利用者数(ウインディ広瀬川)		630人	534人 (492人)	85%	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携し、利用者の状況に応じて面接対応や金銭預かり、整容面の支援を実施することで、利用者や家族が安心して休息できる環境を提供し、地域生活の安定に努めた。</li> <li>・相談支援事業所や医療機関等へ適宜空き状況を伝えたり、空室が出た際は本人や家族、支援者に連絡して利用を促した。</li> </ul>					

## 2. 就労移行支援事業(パルいずみ 定員6名)

実施項目		成果指標	実績	達成度	
1. 就労移行支援事業による一般就労者数		3人	2人 (1人)	67%	
令和7年12月に1名、令和8年3月に1名が障害者枠で就労した。					
2. 就職後の職場定着のために支援した人数		15人	6人 (2人)	40%	
3名に対し定期的に職場を訪問し、雇用先の担当者や家族と連携しながら課題解決に向けた支援を行った。また、その他の3名に対して定期連絡を通して近況確認を行いながら、必要な助言等を行った。					
3. 就労移行支援事業の利用者数	パルいずみ 定員6名	1日平均利用者数	6人	1.2人 (1.3人)	20%
		延べ利用者数	1,440人	276人 (309人)	19%
パルいずみ就労継続支援B型事業利用者の利用切り替えで新規で2名受け入れ、3名に対する支援を実施し、2名が就労につながった。延べ利用者数については、昨年度実績を若干下回った。					

## 3. 就労継続支援B型事業(パルいずみ 定員24名 パル三居沢 定員20名)

実施項目		成果指標	実績	達成度	
1. 就労継続支援B型事業の利用者数	パルいずみ 定員24名	1日平均利用者数	22人	10.3人 (10.5人)	47%
		延べ利用者数	5,280人	2,476人 (2,529人)	47%
	パル三居沢 定員20名	1日平均利用者数	20人	11.9人 (10.9人)	60%
		延べ利用者数	4,800人	2,875人 (2,638人)	60%
利用者が安心して通所し、自らの目標に向けて意欲を維持しながら利用を継続できるよう、定期面接や体調確認、欠席時の連絡などを実施し、パル三居沢においては延べ利用者数が増加した。パルいずみでは、新規利用者3名を受け入れたが、就労移行支援事業に2名が利用を切り替えたことや、体調不良等の要因により6名が利用を終了し、延べ利用者数が昨年度実績を下回った。					
2. 就労継続支援B型事業の工賃	パルいずみ	平均月額	27,000円	33,553円 (27,830円)	121%
	パル三居沢	平均月額	25,000円	19,082円 (20,911円)	76%

パルいずみでは、自主製品の積極的な営業に努めたことや、仙台空港や仙台駅での販売実績が増加したことにより、収入の増がにつながった。また、下請作業における収入も昨年度に比べて増収を図ることができたため、目標平均工賃を超える実績を上げることができた。

パル三居沢では、作業収入の向上及び誰でも取り組みやすい作業確保を目指し、新規の下請作業を2社より受託した。また自主製品に関しては新規製品の開発や販売会へ計画的に出店した。その結果年間売上金額が昨年度を上回ったが、利用者延べ人数や利用率が増加したため、目標平均工賃の達成には至らなかった。

#### 4. 障害者相談支援事業（ほっとすぺーす）

実施項目	成果指標	実績	達成度
1. 相談支援事業延べ利用件数	4,000件	4,736件 (6,385件)	118%
249名の利用者（うち39名が新規）が利用しており、221回の訪問、43回の面接、47回の同行支援を実施。また、個別支援会議を781回、関係機関との連絡調整を1,412回、その他電話相談等の支援を合わせ延べ4,736件の支援を行った。成果指標は達成したものの昨年度実績を下回った理由として、計画相談利用者の対応件数が増加しており、相対的に対応件数が減少した。また、昨年と比較して利用者実人員が減少したこと、不安の解消を目的とした相談電話件数の大幅な減少が考えられる。			
2. 相談支援事業における入院から退院に向けた支援の利用件数	60件	34件 (25件)	57%
入院中の利用者の退院へ向けた支援として34回の訪問を実施し、6名の利用者が退院した。			
3. 仙台市の各種協議会等への参加回数	25回	58回 (30回)	232%
サポネットあおば（青葉区障害者自立支援協議会）の事務局として運営会議に参加するとともに、地域展開チーム（葉山地区・宮城総合支所管内）を担当した他、相談支援事業所等連絡会、実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）、青葉区高齢者障害者地域会議へ参加した。			
4. 計画相談利用実人員	100人	88人 (88人)	88%
79件のサービス等利用計画の作成、サービス担当者会議の開催、モニタリングなど、個々の利用者の状態に応じた継続的な支援を行った。664回の訪問、22回の面接、60回の同行支援を実施し、利用者に対するアセスメントや障害福祉サービスの利用支援を丁寧に進めた。また、個別支援会議を260回、関係機関との連絡調整を2,239回行い、障害福祉サービス事業所や行政、医療機関等と連携を図った。			



### Ⅲ 法人運営の強化

#### 1、健全な財務規律の確立

給付費(障害福祉サービス費:仙台市収入)		成果指標	実績	達成度
ウインディ広瀬川	自立訓練(生活訓練)	30,500千円	19,385千円 (23,515千円)	64%
	宿泊型自立訓練(定員20名)	26,300千円	20,187千円 (27,975千円)	77%
	短期入所(3名)	5,500千円	4,427千円 (4,297千円)	80%
パルいずみ	就労移行支援(定員6名)	7,600千円	1,452千円 (1,460千円)	19%
	就労継続支援B型(定員24名)	28,500千円	18,086千円 (18,454千円)	63%
パル三居沢	就労継続支援B型(定員20名)	27,800千円	22,937千円 (20,841千円)	82%

指定管理事業として行う障害福祉サービス事業に対する給付費は、仙台市の収入として処理されている。当法人においても、中期経営計画において成果指標を設定し、事業運営にあたることとしており、加算対象となる利用者の積極的受け入れや工賃向上による就労継続支援B型事業の給付費単価の向上、利用者の増員等の取り組みの強化により給付費の増収を図っていくこととしており、令和7年度は、ウインディ広瀬川の短期入所事業及びパル三居沢の就労継続支援B型事業において給付費の増収が図られたが、他の事業では前年度実績を下回る結果となった。

#### 2、人材の育成

実施項目	
1. 法人職員研修の実施	
<p>【法人内職員全体研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年 4月18日:令和7年度重点取組</li> <li>・令和7年 6月19日:障害者虐待防止研修</li> <li>・令和7年 7月25日:個人情報保護、情報セキュリティ</li> <li>・令和7年10月17日:BCP研修</li> <li>・令和8年 1月16日:ストレスマネジメント</li> <li>・令和8年 2月20日:感染症対策研修</li> <li>・令和8年 3月13日:安全対策・広報委員会報告、令和8年度事業計画</li> <li>・経験年数10年以下の職員を対象に、接遇研修として令和7年度コミュニケーション技術・対人援助技術研修(主催:宮城県社会福祉協議会)</li> <li>・ほっとすぺーす、ウインディ広瀬川において実施するケース検討会に、他事業所でもZoom等で参加</li> </ul> <p>このほか、仙台市職員研修所が行う「2年目職員研修」「3年目職員研修」に参加した。さらに、各事業所において外部研修等に参加し、人材育成に取り組んだ。</p>	
2. 人事評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、10月、1月を基準とした自己評価結果に基づいた管理者による全体評価、理事長による総合評価の実施</li> <li>・自己申告書に基づく職員の意向把握</li> </ul>
3. 「私たちの行動基準」の具体化	<p>私たちの行動基準に基づき、職員それぞれが毎月の行動目標を定め、管理者との1on1ミーティングを通して振り返りを行いながら、行動基準の具体化を図った。</p>

### 3、リスクマネジメントの推進等

実施項目	
1. 情報公開の充実	法人会報を発行(令和7年7月、令和8年1月)し、財務状況、各事業所の活動報告を行った。また、ホームページにおいても、財務状況を公表している。さらに、広報の充実を図るため令和8年1月からInstagramを利用した情報発信を開始するとともに、ホームページブログを週1回更新し、日々の活動内容等を発信している。
2. 感染症対策の推進	令和7年5月、8月、11月、令和8年3月に感染対策推進委員会を実施し、研修会を2回、訓練を2回実施した。
2. 虐待防止の取組	・宮城県障害者権利擁護センター職員を講師として、障害者虐待防止に関する研修を実施した。 ・各事業所において、虐待防止チェックリストを用いて、毎月職員全体で確認した。
3. BCP(事業継続計画)の取組	・法人の総合防災訓練に合わせて、自然災害BCPIに関する動画視聴や法人BCPの内容と非常配備体制の確認を実施した。
4. 個人情報保護の取組	・仙台市主催の研修に参加するとともに、法人研修で個人情報の保護や情報セキュリティに関する研修を実施した。 ・安全対策委員会における定期的なウイルスチェックの実施確認などにより、情報の外部漏洩の防止に努めた。
5. 防災訓練・消防訓練の実施	令和7年10月17日、法人全体の防災訓練を実施。訓練は、事業所間の情報共有や伝達に関する内容で実施した。また、各事業所においても、消防計画に基づく消防訓練を実施した。

### IV. 評議員会及び理事会の開催状況

#### (1) 評議員会

開催日	内 容
定時評議員会 令和7年6月18日	議 案 第1号議案 令和6年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認について 第2号議案 理事及び監事の選任について 報 告 第1号報告 令和6年度事業報告について その他 (1) 令和7年度事業計画について (2) 令和7年度収支予算書について

(2) 理事会等

開催日	内 容
<p>第1回定時理事会 令和7年5月29日</p>	<p>議 案            第1号議案 令和6年度事業報告及び決算の承認について            第2号議案 令和7年度補正予算の承認について            第3号議案 評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について            第4号議案 評議員選任・解任委員の選任について            第5号議案 評議員選任・解任委員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について            第6号議案 評議員候補者の選定について            第7号議案 管理監督職員の勤務上限年齢の期間延長について            報 告            第1号報告 理事長の職務執行状況について            第2号報告 常務理事の職務執行状況について            第3号報告 育児休業、介護休業等に関する規程の一部改正について</p>
<p>第1回臨時理事会 令和7年6月18日</p>	<p>議 案            第1号議案 理事長の選定について            第2号議案 常務理事の選定について            第3号議案 指定障害福祉サービス事業運営規程及び短期入所事業運営規程の一部改正について</p>
<p>第1回評議員選任・解任委員会 令和7年6月18日</p>	<p>議 案            第1号議案 評議員の選任について</p>
<p>第2回定時理事会 令和7年9月17日</p>	<p>議 案            第1号議案 アルバイト職員就業規則の一部を改正する規則について            第2号議案 育児休業、介護休業等に関する規程の一部改正について            報 告            第1号報告 理事長の職務執行状況について            第2号報告 常務理事の職務執行状況について            第3号報告 次期中期経営計画策定のための検討委員会の設置について</p>
<p>第3回定時理事会 令和7年12月17日</p>	<p>報 告            第1号報告 理事長の職務執行状況について            第2号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
<p>第4回定時理事会 令和8年3月25日</p>	<p>議 案            第1号議案 令和7年度補正予算(案)の承認について            第2号議案 令和8年度事業計画(案)の承認について            第3号議案 令和8年度収支予算(案)の承認について            第4号議案 職員給与規程の一部改正について            第5号議案 嘱託職員就業規則の一部改正について            第6号議案 職員等の旅費に関する規程の一部改正について            第7号議案 管理監督職員の勤務上限年齢の期間延長について            報 告            第1号報告 理事長の職務執行状況について            第2号報告 常務理事の職務執行状況について            第3号報告 「パル三居沢」の廃止及び利用者への説明について</p>

## V. 苦情及び虐待防止関係

苦情に関する申出及び虐待に関する事案はなかった。

## VI. 人事関係

### (1) 職員採用状況

嘱託職員3名採用 ほっとすペースに2名配属(令和7年6月1日、令和7年9月1日)  
ウインディ広瀬川に1名配属(令和7年7月1日)

### (2) 表彰関係

令和7年度健康保険委員支部長表彰

伊藤 敏江

仙台市社会福祉協議会会長表彰

中村 眞貴、野崎 浩平

### (3) 安全衛生関係

職員全員の健康診断を実施したほか、各事業所において外部保健師による健康診断の事後指導を実施した。

## VII. 管理者会議並びに管理者・係長合同会議

管理者会議は毎月1回実施、管理者・係長合同会議は7月、11月、3月に実施し、法人の経営及び事業運営に係る企画、各事業所の運営課題の検討や情報交換等を行った。

## 令和7年度 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業所 ウインディ広瀬川事業報告

令和7年6月26日、大規模改修工事に伴う泉区八乙女への仮移転を実施。利用者が不安や不調にならないよう事前に情報提供を行ったり、仮移転先の見学を行うなどスムーズに引越しできるようサポートしてきた。その結果、大きく体調を崩す利用者もなく、無事に仮移転を完了。

生活訓練プログラムでは、対話やコミュニケーションを目的としたプログラムを継続しながら対人スキルの向上等に努めた。また、泉区八乙女への仮移転後は、近隣店舗把握や運動不足解消のため周辺散策を行ったり、居室についているユニットバスの掃除を毎週のプログラムに組み込むなど、現状の生活環境に合わせてプログラムを実施した。

短期入所事業では、関係機関と連携し、利用者の状況に応じて金銭預かり等の支援や必要な環境整備を行いながら、利用者や家族が安心して休息できる環境を提供し、地域生活の安定に貢献してきた。

### I 事業内容

#### 1. 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業

##### (1) 生活訓練

地域で自立した生活を送れるよう、個別支援では週間予定表の作成による生活習慣作り、生活用品や衣類等の買い物同行、自己破産手続きのため弁護士事務所への同行、金銭や服薬管理の練習など個々の利用者の特性に合わせた生活訓練プログラムを提供した。集団プログラムでは、毎月実施している利用者アンケートの結果から外出プログラムの行き先を選定するなど利用者の希望も取り入れて実施した。

	項目	内容 ( )は頻度または実施回数
集団プログラム	生活技術	館内清掃（毎日） 居室のお風呂・トイレ掃除（週1回） 生活講座（月2回程度）※別表参照
	出前講座	ごみの分別（4月）、歯と口の健康づくり（8月）、感染症への対応（11月）、悪徳商法について（3月）
	外出訓練	公共交通機関等を利用した外出（年9回）
	健康維持	ラジオ体操（毎日） スポーツ（月2～3回） ※泉海洋センター使用 食事や水分の摂り方等に関する講話（年1～2回）
	教育・学習	ポジティブワーク（月1回） カラーセラピー（年1回）
	余暇支援	カラオケ、音楽鑑賞、動画鑑賞（各月1回程度） 季節の行事（年6回） ・お花見（4月）                      ・バス旅行（11月） ・七夕まつり（8月）                ・クリスマス会（12月） ・芋煮会（10月）                    ・豆まき（2月）

	社会参加	アレマ隊（事業所周辺の清掃活動）（月 1 回程度）
	対人交流	コミュニケーション教室（月 1 回） トーキングサークル（月 1 回） お誕生日会（月 1 回）

個別支援プログラム	掃除・整頓、清潔保持、調理、通院支援、買物支援、制度利用支援、体調管理、服薬管理、金銭管理、余暇支援、対人関係についての支援を実施
-----------	---

別表：生活講座は以下の内容で実施した。

月	内 容	月	内 容
4 月	余暇の過ごし方、洗面台の掃除	1 0 月	地域移行（及び社会資源）について
5 月	衣類の整理整頓、グループホーム見学	1 1 月	大掃除（エアコンフィルター／ベランダ）
6 月	移転の荷造り（2 回実施）	1 2 月	引越しについて、食事・栄養バランス
7 月	ユニットバスの使い方・掃除の仕方	1 月	整理整頓（窓枠清掃）、パルいずみ見学
8 月	寝具類の洗濯（グループ毎）	2 月	お金の使い方、清涼飲料水の摂り方
9 月	生活リズム、整理整頓（衣替え）	3 月	整理整頓

## （2）宿泊訓練

個別支援計画に基づき、以下のとおり利用者の特性に合わせて支援した。

### ①就寝・起床、食事、入浴等の生活リズムの確立

規則正しい生活が身につくよう、就寝、起床、入浴、食事準備の際に声掛けや見守りの支援を行った。生活リズムを整えるため、プログラムに休まず参加することや、疲れを溜めないような生活に向けた助言をしたり、毎月の振り返りの中で血圧・体重・BMI 測定等を実施し、健康状態の把握に努めた。

### ②整容、洗濯、居室整理、ゴミ分別・ゴミ出し等衛生面の習得

洗濯物の量を確認して適切な頻度で洗濯に取り組めるよう支援した。

プログラムとして居室のトイレ・風呂掃除を週 1 回実施するとともに、月 1 回居室の点検を行い、清潔保持や生活環境の維持に向けて必要に応じた助言・指導を行った。

ゴミの分別方法について助言・指導を行うとともに、ゴミ出しを忘れがちな利用者に対しては声掛けを行い、適切にゴミ出しができるよう支援した。

### ③服薬管理

利用者の意向を尊重し、希望者については事務室での管理を行いながら、個々の状況に応じて段階的に自己管理へ移行できるよう支援を行った。

### ④金銭管理

予算内での管理が難しい、計画を立てるのが苦手等、個々の利用者の特徴や状況に合わせて訓練を行った。特に自己破産の手続きを行う利用者に対しては弁護士事務所に同行し、必要な書類作成などの支援を行った。

### (3) 地域生活への移行支援

地域生活への移行者数は、8名となった。

#### ①家族・関係機関との意見調整

本人を中心に、家族、医療機関、相談支援事業所、保健福祉センター、グループホーム、居住支援法人等の関係機関と十分な意見調整を行いながら、地域生活への移行を支援した。

利用中の目標確認、退所に向けた準備等を目的としたケア会議を開催したほか、随時サービス担当者会議に参加し退所後の生活についての検討を行った。

#### ②退所先住居の確保

利用者の希望に沿って、アパートやグループホームの見学、受入れ先との情報共有、申請手続き等の支援を行った。必要に応じて体験利用の調整や送迎の支援も行った。結果、4名の利用者がグループホーム、3名が自宅復帰、1名が単身生活へ移行した。

#### ③必要な在宅サービスの導入

本人の意向を基に必要な在宅サービスを検討。自宅復帰や単身生活へ移行する利用者のために、短期入所や居宅介護、訪問看護の導入を調整した。

#### ④地域生活における日中活動等へ向けた取組

本人の希望を基に、就労継続支援B型事業所見学等の支援を行った。

### (4) 面接相談

#### ①随時面接

精神的不調の訴えや、生活上の困りごと、職員からの随時の助言指導などを含め、状況に応じた生活課題に関する面接を行った。

#### ②定期面接

全ての利用者に対して、1か月に1回以上の面接を行った。

#### ③家族面接

家族の相談への対応や本人の状況報告、事業所の取組み説明等のため家族との面接を実施した。

### (5) 健康管理

#### ①仙台市が実施する各種健診の情報提供、受診同行、受診後の助言

仙台市市民健診の周知を行い、各種健診の受診勧奨を行なった。また精神科に限らず、内科や皮膚科などの受診同行を行ない利用者の健康管理のサポートを行った。

#### ②体重及びバイタルチェック

利用者全員に月1回実施し、必要に応じて助言指導を行った。

#### ③健康教育

出前講座として外部講師を招き、歯科衛生士による口腔衛生指導や、家庭健康課による感染症に関する講話を実施した。

利用者から体調不良の訴えを受けた際は、状況に応じて受診勧奨や通院同行を行った。

#### ④食事摂取量の把握

利用者の給食提供時の食事摂取量を把握し、毎日記録した。

(6) 退所者へのアフターケア

①訪問サービス

8名の利用者が退所した。退所者のうち、グループホームの入居者4名、アパートでの単身生活者1名、元夫との生活に戻った利用者1名に対して、3か月間のアフターケアを実施した。必要に応じて住所変更のための同行、通所事業所の見学同行、通院同行を実施したり、関係機関と情報共有し、円滑な地域移行のため丁寧な引継ぎを行った。

②電話相談、面接相談

随時実施した。

③関係機関との連絡調整

随時実施した。

(7) 実習生の受入れ・指導

東北福祉大学より精神保健福祉実習2名、仙台大学よりソーシャルワーク実習1名、葵会仙台看護専門学校より32名、仙台医療センター附属仙台看護助産学校より28名の実習生を受け入れた。

(8) 仙台市の協議会への参加

令和8年1月に青葉区障害者自立支援協議会「サポネットあおぼのつどい」に参加した。

**2. 短期入所（ショートステイ）事業**

本人、家族の休息を目的に、ショートステイ事業を行った。中期経営計画目標の延べ利用者数630名に対して、534名の利用があった。

**3. 地域移行支援事業における体験宿泊支援、地域定着支援事業における一時滞在支援**

本年度における利用実績はなかった。

**4. 大規模改修及び仮移転への対応**

大規模改修工事に伴う仮移転のため、業務委託の業者との調整や電話配線工事の調整など必要な対応を行い、令和7年6月26日に仮移転を無事に完了した。改修工事に向けても仙台市の各担当課や設計業者等との打ち合わせを重ね、令和8年2月9日に着工。毎月行う定例の打ち合わせに参加し、進捗状況を確認している。

II 事業実績

(令和8年3月31日現在)

表-1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
利 用 者	宿泊型 自立訓練	開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	28	31	365	
		利用者実人数	15	14	13	10	10	10	10	9	9	8	7	7	-
		延べ利用者数	349	390	344	309	300	293	285	250	227	208	163	182	3,300
		1日平均利用者数	11.7	12.6	11.5	10.0	9.7	9.8	9.2	8.4	7.4	6.8	5.9	5.9	9.1 ※3
		利用率(%)	58	63	57	50	48	49	46	42	37	34	29	29	45
	自立訓練 (生活訓練)	開所日数(日)	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242
		利用者実人数	15	14	13	10	10	10	10	9	9	8	7	7	-
		延べ利用者数	243	255	239	217	194	194	201	148	153	130	103	124	2,201
		1日平均利用者数	11.6	12.8	11.4	9.9	9.7	9.7	9.2	8.3	7.7	6.9	5.8	6.0	9.1 ※3
		利用率(%)	58	64	57	49	49	49	46	41	38	34	29	30	45
当月在籍者数(定員20名)	14	13	10	10	10	10	9	9	8	7	7	7	-		
新規利用者数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
退所者数	1	1	3	0	0	0	1	0	1	1	0	0	8		
体験利用者	利用者数	0	0	0	0	0	1	(1)	(1)	0	(1)	0	1	2	
	延べ利用者数	0	0	0	0	0	2	1	3	0	3	0	9	18	

※1利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2再掲:( )内の体験利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

※3中期経営計画目標:16人

表-2. 短期入所(ショートステイ)利用状況

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者実人数	4	5	4	5	4	9	7	8	9	6	7	8	-
延べ利用者数	36	37	30	35	41	54	52	55	54	36	53	51	534
1日平均利用者数	1.2	1.2	1.0	1.2	1.4	1.8	1.7	1.9	1.8	1.2	1.9	1.7	1.5
利用率(%)	40	40	33	38	44	60	56	61	58	39	63	55	49

※1 延べ利用者数:中期経営計画目標 630人/年

※2 利用率:延べ利用者数÷(定員3名×開所日数)×100

表-3. 地域移行支援事業 体験宿泊利用者状況

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※再掲:( )内の体験宿泊利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

表-4-(1). 新規利用者の利用前の状況 (人)

	入院	在宅	施設入所	計
男性	0	1	1	2
女性	1	0	0	1
計	1	1	0	3

中期経営計画目標:入院からの利用7人/年

表-4-(2). 新規利用者の紹介元 (人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	0	0	1	0	0	1	2
女性	0	0	0	0	1	0	0	1
計	0	0	0	1	1	0	1	3

表-5. 退所者転帰 (人)

	地域生活への移行			入院	他施設移行	その他	計
	単身自立	グループホーム	家庭復帰				
男性	1	3	0	0	0	0	4
女性	0	1	2	0	0	1	4
計	1	4	2	0	0	1	8

中期経営計画目標:地域生活への移行8人/年

表-6. 退所者の利用期間 <平均利用期間 1年3か月>

期間	人数	内訳
6か月未満	1	家庭復帰
6か月～1年未満	2	家庭復帰、その他
1年～2年未満	5	単身自立(1)、グループホーム(4)
2年～3年未満	0	
計	8	

表-7. 利用者所轄保健福祉センター (人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	3	1	1	0	0	1	6
女性	1	0	0	0	0	0	1
計	4	1	1	0	0	1	7

表-8. 平均年齢 (歳)

	男性	女性	全体
平均	49.3	48.0	48.7

表-9. 「主たる精神障害」による区分 (人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	3	0	3
統合失調感情障害	2	0	2
双極性障害	1	0	1
その他	0	1	1
計	6	1	7

表-10. 障害者手帳取得状況 (人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	2	
精神障害者保健福祉手帳2級	3	
精神障害者保健福祉手帳3級	1	
その他手帳	1	
未取得	0	
計	7	

## 令和7年度 就労移行支援事業所 パルいずみ事業報告

利用者の就労に向け、一人ひとりの状態や希望及び適性等に合わせ、就労に必要な知識や能力の向上のために段階的に取り組めるようプログラムを提供した。職場見学や職場体験実習などの事業所外プログラムの提供とともに、併設する就労継続支援B型サービスを活用し、きめ細かな就労支援の充実に努めた。また、就職者の職場定着に向けた取組を定期的に行い、就労状況確認及び課題解決に向けた働きかけを通して就労の継続を図った。

### 1. 事業内容

#### (1) 就労支援

令和7年度中に延べ3名の就労支援を行った。12月に1名、令和8年3月に1名が障害者枠での就労につながった。もう1名については、就職に向けて支援を進めている。

(中期経営計画目標：3名)

##### ①就労プログラムの実施

事業所内外において、下表の通りプログラムを実施した。

なお、プログラムの実施にあたってはハローワーク仙台での就職に向けた相談や求人検索等を通し、連携のもと職場見学や職場実習を実施した。

	プログラム	内 容	実施状況	
事業 所 内	基礎訓練	①活動記録表作成及び振り返りによる生活習慣確立、自己理解促進	通所時	
		②文字の書き取り・漢字の読み書き・計算問題	個別対応	
		③フリートーク（コミュニケーション力向上）	個別対応	
		④パソコン入力（Word 12コース Excel 6コース、就労パスポート作成）	個別対応	
	講義 (就労支援シート)	■ステップ1 ○就労に向けた動機づけ	8回	
		①働く目的		
		②働くための準備		
		③自分に合った仕事を見つける		
		④障害開示・非開示		
		⑤雇用形態（一般雇用・障害者雇用）		
		⑥社会資源		
		⑦ステップ1のまとめ（2回）		
			■ステップ2 ○就労に関わる法律	8回
			①労働基準法	
			②パートタイム労働法	
			③最低賃金法	
			④医療保険（健康保険・国民健康保険）	
			⑤労働保険（労災保険・雇用保険）	
⑥年金（国民年金・厚生年金）（2回）				
⑦ステップ2のまとめ				

		■ステップ3 ○就労に必要なビジネスマナー	7回
		①第一印象を磨く（2回）	
		②身だしなみ、姿勢、お辞儀（2回）	
		③コミュニケーション	
		④敬語、名刺交換	
		⑤履歴書の書き方	
事業所外	ハローワーク	求職者登録、求人検索	1回
	職場見学	①オートランドリータカノ（職員）	1回
		②ワタキューセイモア株式会社（職員）	1回
		③株式会社新陽ランドリー（職員）	1回
④株式会社泉リサイクルセンター		1回	
⑤株式会社丸和運輸機関		1回	
就労体験実習	①エヌ・ティファシリティーズ株式会社	1回	
	②株式会社泉リサイクルセンター	3回	
	③株式会社丸和運輸機関	1回	

②仙台市障害者就労支援センターとの連携や宮城県障害者就労連携構築支援事業等の活用を通じ、職場見学や実習を実施した。

### ③就労後の職場定着支援

障害者雇用及び一般アルバイトの就職者6名を対象に実施した。（中期経営計画目標：15名）

令和6年7月に就職した1名は、定期的な職場訪問や電話連絡を通して課題や状況把握を行い、企業の担当者と連携しながらアフターフォローを行った。令和3年度に就労した1名は、本人から、または当方からの連絡を通して体調や勤務状況の確認や企業との連絡調整を行い、サポートを継続した。また、令和7年12月及び令和8年3月に就労を開始した2名に対する職場訪問等を実施した。加えて、就職者2名に対して電話連絡を実施した。

### (2) 作業訓練（下請作業・自主製品）

多機能型事業所としてB型事業の生産活動参加の他、販売会参加や企業への納品時に同行する等、役割意識を持って作業に取り組めるよう支援した。

### (3) 相談支援

#### ①定期面接

3か月ごとに定期的にも実施し、課題に対する振り返り・個別支援計画の評価・見直しを行った。

#### ②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

### (4) 健康管理

#### ①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

#### ②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意

識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(5) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事实施

②食事会実施

ランチ	4月	山菜おこわ、天ぷら	9月	炊き込みご飯、山形風芋煮
	5月	ガパオライス、サラダ	11月	カレーライス、サラダ
	6月	ホイコーロー	2月	ハンバーグ
	8月	夏野菜と冷しゃぶのサラダうどん	3月	ちらし寿司
レクリエーション	7月	パスタ、オリジナルピザ作り	12月	クリスマスメニュー、ビンゴ大会
	10月	バス旅行（東松島方面）	1月	お餅メニュー、余興

(6) 実習生の受入れ・指導等

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	1名
	仙台白百合女子大学	2名
精神看護学実習	東北大学	38名
	仙台青葉学院短期大学	6名
	葵会仙台看護専門学校	29名
	仙台医療センター附属看護助産学校	22名
	仙台市医師会看護専門学校	16名
介護等体験実習	東北生活文化大学	1名
計		115名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。（12月）

(7) 就労アセスメントの実施

実施実績なし。

(8) 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に1回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を11月（218部）及び3月（220部）に発行し、行政関係、病院・訪問看護関係、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、地域包括支援センター、教育機関、生産活動・就労関係、役員・関係者へ発送した。また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

利用者増の確保に向け、行政機関、障害者就労支援センター、障害者相談支援事業所、病院・クリニック、地域包括支援センター等への訪問や電話連絡を延べ71回実施した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていーたいむパロス）の世話人会の加入を継続し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。また、泉ヶ丘小学校や泉社会福祉センター、近隣の高齢者施設の地域イベントに参加し、地域交流や事業所周知に取り組んだ。

## 2.実績報告

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242
当月在籍者数(定員6名)	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	—
利用者実人数	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	—
新規利用者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
延べ利用者数	21	20	21	22	18	20	41	32	16	15	30	20	276 ※2
1日平均利用者数	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	1.9	1.8	0.8	0.8	1.7	1.0	1.2 ※3
利用率(%)	17	17	17	17	15	17	33	30	13	13	28	16	19

※利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2 中期経営計画目標:1,440人/年

※3 中期経営計画目標:6人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・ 家族	区役所	その他行政 機関	医療機関	相談支援事 業所	福祉サービ ス事業所	その他	計
男性	0	0	0	0	0	0	2	2
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	2	2

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	2	0	0	0	0	0	2
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	0	0	0	0	2

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	0	0	0	0	1	0	1
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	0	1

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	38.0	—	38.0

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	1	0	1
計	1	0	1

表-7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	0	
精神障害者保健福祉手帳2級	0	
精神障害者保健福祉手帳3級	1	
その他	0	
計	1	

## 令和7年度 就労継続支援B型事業所 パルいずみ事業報告

一人ひとりの利用者の目標達成に向け、状況や希望を把握し、個々に合わせたサービス提供に努めた。工賃については、自主製品の七夕すたらっぷの売上が増加し、100万円以上の増収となったほか、下請作業についても前年度に比べ増収を図ることができたため、令和6年度実績及び目標を上回る結果となった。

### 1. 事業内容

#### (1) 生産活動

工賃向上への取組み（中期経営計画目標平均工賃月額 27,000円以上）

(年間売上合計)

年間売上合計	下請作業等	3,390,125 円
6,551,993 円（前年度比 126%）	外部作業	204,450 円
（令和6年度実績 5,190,092 円）	自主製品	2,957,418 円

(平均工賃)

平均工賃月額	33,553 円（前年度比 121%）	令和6年度実績	27,830 円
時給額	532 円（前年度比 110%）	令和6年度実績	482 円

#### ① 下請作業

(事業所内)

- ・アンケート集計・データ入力
- ・箱折
- ・企業広告等の封入・封かん
- ・生薬の計量及び袋詰め
- ・医療用ごみ袋封入
- ・梱包

(外部作業)

- ・企業内での業務

#### ② 自主製品制作

- ・ビーズ製品（アクセサリー、ストラップ等）
- ・手芸製品（アクセサリー、クリスマス製品等）

自主製品については、仙台駅構内での売店、福祉ショップ等の4か所の委託先での販売を継続した。また、県庁職員や仙台市職員を対象とした通販の企画に参加し、自主製品の販売を行った。

販売会については、以下のとおり行った。

販売会名（実施時期）
区役所販売会：泉区役所（10～12月）計3回
泉ヶ丘小学校バザー（9月）
グッドタイムマルシェ（9月）
県庁ロビー働く障害者ふれあいフェスティバル（12月）

## (2) 相談支援

### ①定期面接

6か月ごとの個別支援計画の見直しに係る面接実施のほかに、1か月に1回程度の定期面接を実施し、事業所利用状況や生活状況の確認、バイタルチェックなどを実施した。

### ②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

## (3) 就労支援

### ①就労移行支援事業との連携（就労プログラムへの参加等）

本人の就労への意欲や目標に応じ、ステップアップの方法の一つとして利用者に就労移行支援事業の情報提供を行った。

### ②利用者の希望に沿った支援の実施

定期的な面接場面等を通じて、利用者の意向を適切に把握するように努め、希望に沿った支援を提供できるよう努めた。また、就労した退所者へも本人の状態に合わせて電話連絡や面談を行い、継続できるように努めた。

## (4) 丁寧な支援を必要とする方や精神障害を持つ高齢者への支援

### ①作業環境の整備

個々の活動に合わせて作業に必要な物の配置を行ったほか、移動しやすいよう作業場所を配慮した。

### ②本人の体力や障害程度に合わせた作業方法の検討及び指導

一人ひとりの状態に応じて作業内容、作業方法について検討し、指導を進めた。

### ③関係機関との連携

家族や関係機関と必要に応じて連絡調整等を進め、支援を進めた。

## (5) 健康管理

### ①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

### ②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

### ③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

### ④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

## (6) 余暇支援（行事・レクリエーション）

### ①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事实施

### ②食事会実施

ランチ	4月	山菜おこわ、天ぷら	9月	炊き込みご飯、豚汁
	5月	ガパオライス、サラダ	11月	カレーライス・サラダ
	6月	ホイコーロー	2月	ハンバーグ
	8月	夏野菜と冷しゃぶのサラダうどん	3月	ちらし寿司
レクリエーション	7月	パスタ、オリジナルピザ作り	12月	クリスマスコンメニュー、ビンゴ大会
	10月	バス旅行（東松島方面）	1月	お餅メニュー、余興

(7) 実習生の受入れ・指導等

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	1名
	仙台白百合女子大学	2名
精神看護学実習	東北大学	38名
	仙台青葉学院短期大学	6名
	葵会仙台看護専門学校	29名
	仙台医療センター附属看護助産学校	22名
	仙台市医師会看護専門学校	16名
介護等体験実習	東北生活文化大学	1名
計		115名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。(12月)

(8) 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に1回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を11月（218部）及び3月（220部）に発行し、行政関係、病院・訪問看護関係、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、地域包括支援センター、教育機関、生産活動・就労関係、役員・関係者へ発送した。また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

利用者増の確保に向け、行政機関、障害者就労支援センター、障害者相談支援事業所、病院・クリニック、地域包括支援センター等への訪問や電話連絡を延べ71回実施した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていーたいむパロス）の世話人会の加入を継続し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。また、泉ヶ丘小学校や泉社会福祉センター、近隣の高齢者施設の地域イベントに参加し、地域交流や事業所周知に取り組んだ。

## 2.実績報告

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242
当月在籍者数(定員24名)	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	21	21	—
利用者実人数	23	23	22	21	21	22	20	21	21	21	19	19	—
新規利用者数	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
退所者数	1	0	0	0	1	1	0	1	0	2	0	0	6
延べ利用者数	235	206	207	231	208	208	212	181	213	202	168	205	2476 ※2
1日平均利用者数	11.2	10.3	9.9	10.5	10.4	10.4	9.7	10.1	10.7	10.7	9.4	9.8	10.3 ※3
利用率(%)	47	43	41	44	43	43	40	42	44	44	39	41	43

※利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2 中期経営計画目標:5,280人/年

※3 中期経営計画目標:22人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・ 家族	区役所	その他行政 機関	医療機関	相談支援事 業所	福祉サービ ス事業所	その他	計
男性	0	0	0	1	0	1	0	2
女性	0	0	1	0	0	0	0	1
計	0	0	1	1	0	1	0	3

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	1	0	0	2	3
女性	0	0	2	0	0	1	3
計	0	0	3	0	0	3	6

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	3	0	0	1	9	0	13
女性	1	1	0	0	6	0	8
計	4	1	0	1	15	0	21

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	50.4	48.5	49.7

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	7	4	11
双極性障害	0	1	1
うつ病	2	1	3
パニック障害	1	0	1
適応障害	0	1	1
情緒不安定型パーソナリティ障害	0	0	0
てんかん	1	0	1
知的障害	2	1	3
計	13	8	21

表-7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	1	
精神障害者保健福祉手帳2級	14	・うち療育手帳B 2 ・身体障害者手帳6級 1
精神障害者保健福祉手帳3級	2	
その他	4	・うち身体障害者手帳1級、療 育手帳B 1 ・うち療育手帳B 3
計	21	

## 令和7年度 就労継続支援B型事業所 パル三居沢事業報告

利用者一人ひとりが安心して通所し、自らの目標に向けて活動できるようきめ細やかな支援に努めた。その結果昨年度に比べ利用者延べ人数や利用率が向上した。

作業面に関しては、作業収入の向上及び誰でも取り組みやすい作業の確保を目指し新規の下請作業を2社より受託した。また自主製品については、新製品の開発や販売会への計画的な出店の他、委託販売先の確保に努めた結果、年間売上金額が昨年度を上回ることが出来た。

### 1 事業内容

#### (1) 生産活動

- ・ 工賃向上への取り組み

(年間売上合計)

年間売上合計円 3,035,227円 (前年度比 101%) (令和6年度実績 3,014,252円)	下請作業	1,813,877円
	外部作業 (清掃、除草)	903,700円
	自主製品 (リース等、手芸品)	317,650円

(平均工賃)

平均工賃月額	19,082円 (前年度比 91%)	令和6年度実績	20,911円
時給額	365円 (前年度比 95%)	令和6年度実績	384円

#### ① 下請作業

- ・ 医療用コルセット組立て
- ・ 企業広告等の封入・封緘
- ・ 箱折
- ・ 通販商品出荷作業

#### ② 外部作業

- ・ 清掃作業
- ・ 除草作業
- ・ 刈り草収集作業

#### ③ 自主製品制作

- ・ 自然素材を用いたリース等
- ・ 手芸製品 (アクリルたわし等)

#### (2) 相談支援

利用者や家族からの生活面での相談など個々の相談に対しては真摯に向き合い、不安解消等に向けた適切な助言・指導を行った。

- ① 定期面接 6か月以内の個別支援計画の見直しに向けた定期面談を適宜実施した。
- ② 随時面接 必要に応じて実施した。

### (3) 就労支援

将来的に一般就労を希望する利用者に対し、面接場面を通し本人の意向の把握に努め、希望に沿った支援が提供できるよう助言や情報提供に努めた。

### (4) 重度の障害のある者や高齢精神障害者への支援

重度の障害のある者や高齢精神障害者を積極的に受け入れ、社会参加の促進を図った。

- ①利用者の多くが作業参加できる環境を整えた。
- ②個々の利用者の体力や障害特性を踏まえた作業工程・手法を提案した。
- ③関係機関との連携を深め支援の質を高めた。

### (5) 健康管理

利用者の健康増進、維持に努めた。

- ①各區で実施する各種検診の情報を提供した。
- ②ラジオ体操を実施した。
- ③健康維持に向け、青葉区健康教育を利用し、口腔内ケアについて講義を受けた他、機会をとらえ夏バテ予防や感染症予防の説明について事業所内で取り組んだ。
- ④健康に関する自己管理意識の動機づけを行った。(体重や血圧の測定等)

### (6) 余暇支援 (行事・レクリエーション)

利用者間や職員との交流など事業所内全体の親睦を深めることを目的に、利用者の希望を反映させた季節の行事やレクリエーションを企画した。

4月	食事会 (ハヤシライス)	10月	芋煮会
5月	外食 (居酒屋ランチ)	11月	食事会 (ガスト)・音楽鑑賞
6月	食事会 (土用丑の日)	12月	クリスマス会
7月	食事会 (故里) 出前講座 (口腔内ケア)	2月	食事会 (オムライス) アカペラ観賞
8月	夏祭り	3月	食事会 (海鮮丼) スライドショー
9月	バス旅行		

### (7) 広報活動

法人・事業所の広報誌、ホームページ、ブログ等の活用や訪問活動を拡充し、事業内容等を広く紹介することで、新たな利用者の受入れや新規受託作業の獲得に努めた。

特に、ホームページ内のブログの更新は、月に1回の頻度で行い、作業活動のほか販売会やレクリエーションの内容等を積極的に紹介した。

### (8) 実習生の受け入れ・指導

福祉専門職、看護師等の養成に協力するため、COVID-19 予防策について学校側とも共有して取り組み、実習生を受け入れ指導した。

実 習 種 別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	4名
	仙台白百合女子大学	1名
精神看護学実習	東北大学	30名
	仙台青葉学院短期大学	6名
	葵会仙台看護専門学校	24名
	仙台医療センター附属仙台看護助産学校	27名
		92名

## II 事業実績

(令和8年3月31日現在)

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	21	20	21	22	20	20	22	18	20	19	18	21	242
当月在籍者数(定員20名)	23	23	23	23	23	21	20	20	20	20	20	20	—
利用者実人数	20	22	22	19	20	19	19	19	20	20	20	20	—
新規利用者数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所者数	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4
延べ利用者数	258	245	263	260	233	234	252	211	239	221	212	247	2875 ※2
1日平均利用者数	12.3	12.3	12.6	11.9	11.7	11.7	11.5	11.8	12.0	11.7	11.8	11.8	11.9 ※3
利用率(%)	61	61	63	59	58	62	57	59	60	58	59	59	60

※利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2 中期経営計画目標:4,800人/年

※3 中期経営計画目標:20人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・ 家族	区役所	その他行政 機関	医療機関	相談支援事 業所	福祉サービ ス事業所	その他	計
男性	1	0	0	0	0	0	1	2
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	0	0	1	2

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	2	0	0	0	2
女性	0	0	2	0	0	0	2
計	0	0	4	0	0	0	4

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	12	0	0	2	0	0	14
女性	5	0	0	1	0	0	6
計	17	0	0	3	0	0	20

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	55.4	48.6	53.4

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	10	1	11
うつ病	2	1	3
強迫性障害	0	1	1
知的障害	1	0	1
不安障害	0	1	1
身体障害	1	0	1
広汎性発達障害	0	1	1
てんかん	0	1	1
計	14	6	20

表-7. 障害者手帳取得状況

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	2	うち療育手帳B1人
精神障害者保健福祉手帳2級	11	うち療育手帳B1人
精神障害者保健福祉手帳3級	5	
身体障害者手帳	1	4級(下肢右4、下肢左7)
療育手帳	1	B
計	20	

## 令和7年度 障害者相談支援事業所 ほっとすぺーす事業報告

障害者相談支援事業では、精神科病院に入院している方への退院支援や、多領域にわたる複雑な生活課題がある障害者や家族等に対する支援を行政機関や医療機関等と連携しながら行った。延べ利用者数は、電話相談や面接相談等も含めて目標の4,000件に対して4,736件と上回った。

地域の障害者への支援体制整備に関する活動として、青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）に参画し、指定特定相談支援事業所へのヒアリング、地域展開チーム（葉山地区・宮城総合支所管内）の運営を担った他、地域課題の取組等について検討した。また、地域の支援者同士のネットワーク形成を目的に、ゆるっく～地域でつながろうの会～（国見地域多職種連携ネットワーク）に事務局として参画した。

計画相談支援では、障害福祉サービスを利用する方々にサービス等利用計画の作成や調整を行い、地域生活を支援した。

### I 事業内容

#### 1. 障害者相談支援事業（委託相談支援）

##### （1）障害者相談支援業務

令和7年度は、249名の利用者が委託相談支援を利用しており、うち39名が新規利用者となっている。

支援内容としては、221回の訪問、43回の面接、47回の同行支援を実施。また、個別支援会議を781回、関係機関との連絡調整を1,412回、その他電話相談等の支援と合わせると延べ4,736件の支援を行った。

（中期経営計画目標：委託相談支援事業延べ利用者数4,000件）

##### ① 福祉サービスの利用援助事業

仙台市権利擁護センター（まもりーぶ仙台）や成年後見制度、移動支援などの利用に関する情報提供や助言、生活保護申請及び各種手続きに関する助言や同行、ホームヘルパーによる居宅介護、短期入所等の利用に係る調整や援助を行った。

また障害福祉サービスから介護保険移行に伴う調整を地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携して行い、2名の利用者が介護保険に移行した。

##### ② 社会資源を活用するための支援事業

利用者の希望を確認し、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所、自立訓練事業所、共同生活援助事業所等の紹介や見学の同行等を行った。また、住居探しのための情報提供や同行を行い、居住支援法人とも連携して支援に当たった。

##### ③ 社会生活力を高めるための支援事業

関係機関や障害福祉サービス事業所等とも連携しながら、健康、服薬、金銭管理、家事、公共交通機関の利用、趣味や余暇活動の充実など自立した社会生活を営むことができるよう必要な支援を行った。

##### ④ 専門機関の紹介事業

利用者のニーズを把握した上で、各種専門機関の紹介を行った。また、発達障害や知的障害のある方、病識が不十分な方等について、専門機関と連携しながら支援を行った。

##### ⑤ 障害者ケアマネジメントに関する事業

各区保健福祉センター等の関係機関とも連携しながら、利用者の希望を確認し、それぞれが持っている力を活かせるよう支援を行った。また本人との信頼関係の構築を図りながら、家族の相

談にも応じた。

また、入院中の利用者の退院へむけた支援として、34回の訪問を実施し、6名が退院した。  
(中期経営計画目標：入院から退院に向けた支援件数60件)

#### ⑥ 地域住民等に対する普及啓発に関する事業

立町小学校社会学級、南吉成地域包括圏域会議に講師として参加。地域で気になる人への対応、障害のある方の暮らしについての講話と意見交換を行った。

ゆるっく～地域でつながろうの会～(国見地域多職種連携ネットワーク)に事務局として参画。地域活動に関する話題提供や情報交換を3回実施。9月に国見コミュニティセンターにて、地域にある福祉関係の事業所を中心にブースを出店してイベントを開催し、障害分野と高齢分野の普及啓発を行った。当日は100名超の来場者があった。

更に、月1回程度ブログを更新し活動内容の紹介を行った他、広報誌「ほっとすぺーす便り」を下記の通り発行した。1月からインスタグラムでの発信も開始した。

区分	部数	配布先
	7月	
利用者	95	
関係機関	65	仙台市健康福祉局関係部署、精神科病院及びクリニック、宮城県及び仙台市社会福祉協議会、障害福祉サービス事業所、障害者相談支援事業所、法人役員など
計	160	

#### ⑦ その他生活支援に関すること

福祉サービスに関する支援等に限らず、公共料金の支払い、居室の掃除等、利用者の生活全般における困りごとに対して支援を行った。

#### ⑧ 障害者同士が自主的に交流できる場や地域住民との交流を図るための場を提供する事業

誰もが自由に利用できるフリースペースとしてサロンの場を提供し、必要に応じて来所者の個別相談を実施した。

### (2) 障害者虐待の防止に係る業務

利用者支援にあたり、関係機関と連携しながら虐待の未然防止や早期発見の観点をもって支援を行った。また障害者虐待防止・権利擁護研修に参加し意識向上に努めた。

### (3) 障害を理由とする差別の解消に係る業務

差別に関する相談は受けていないが、関係機関と連携しながら障害を理由とする差別の解消を図れるよう利用者支援を行った。また障害者差別解消法に係る研修に参加し意識向上に努めた。

## 2. 指定特定相談支援事業(計画相談支援)

障害福祉サービスの利用を支援するために88名と計画相談の契約を締結しており、79件のサービス等利用計画の作成、サービス担当者会議の開催、モニタリングなど、個々の利用者の状態に応じた継続的な支援を行った。

(中期経営計画目標：計画相談利用者実人数100名)

計画相談利用者に対し、664回の訪問、22回の面接、60回の同行支援を実施し、利用者に対

するアセスメントや障害福祉サービスの利用支援を丁寧に進めた。また、個別支援会議を260回、関係機関との連絡調整を2,239回行い、障害福祉サービス事業所や行政、医療機関等と連携を図った。

### 3. 指定一般相談支援事業（地域相談支援）

#### （1）地域移行支援

支援対象者がいないので、実績なし。

#### （2）地域定着支援

支援対象者がいないので、実績なし。

### 4. 指定障害児相談支援事業

支援対象者がいないので、実績なし。

### 5. 仙台市の協議会等への参加

#### （1）青葉区障害者自立支援協議会

障害者への支援体制整備に向けて、青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）に事務局として参画。運営会議に12回参加した。また、サポネットあおばの会議体である地域展開チーム（葉山地区・宮城総合支所管内）を担当した他、相談支援事業所等連絡会、実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）、青葉区高齢者障害者地域会議へ参加した。

○地域展開チーム：【葉山地区】児童分野（児童館）2か所のヒアリングを通して地域の特徴や連携についての聞き取りを実施。支援者同士が対面にて協議・意見交換できる場をつくることを目的として、7月に「荒巻/通町地区～支援者同士の情報交換会」を開催した。【宮城総合支所管内】管内4か所の地域包括支援センターを訪問し、高齢分野と障害分野の協働について意見交換を実施。7月に宮城地区子育てネットワーク会議へ参加、管内の状況確認と情報交換を行った。11月、南吉成地域包括圏域会議にて「障害のある方の暮らしについて知ろう」をテーマに講話を行った。また、管内の障害福祉サービス事業所等を見える化し、地域住民に活用してもらう目的で福祉事業所マップ作成に着手。指定特定相談支援事業所もメンバーに入り、検討を開始している。

○相談支援事業所等連絡会：青葉区内の指定特定相談支援事業所、委託相談支援事業所、地域生活支援拠点、仙台市精神保健福祉総合センター、青葉区障害高齢課、宮城総合支所保健福祉課・障害高齢課、基幹相談支援センター、青葉区内の地域包括支援センターが参加し、相談支援に有効な話題提供、重点的に関わる対象者のケースレビュー、事例検討及びグループスーパービジョンを11回実施し、支援力の向上に努めた。

○実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）：青葉区内の関係機関のネットワークの緊密化を促進するために、参加事業所の近況や情報共有、権利擁護をテーマに2回実施した。

○青葉区高齢者障害者地域会議：高齢分野と障害分野の支援機関の連携及び地域の支え合いの体制作りを目的に、実践報告から分野を超えて協働できる取組について検討する意見交換を1回実施した。

#### （2）相談支援事業所連携会議

旧精神の委託相談支援事業所の事業運営や自立支援協議会の活動等について、情報共有と意見交換を2回行った。

## II 事業実績

### 1. 委託相談支援実施状況

表-1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者実人員	障害者	112	90	89	85	86	104	112	87	91	88	81	97
	障害児	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	計	113	91	90	86	87	105	113	87	91	88	81	97

表-2. 支援方法

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	13	22	12	19	14	17	23	21	20	22	15	23	221
来所相談	9	3	7	4	6	2	1	3	3	0	2	3	43
同行	6	6	2	3	1	2	7	5	5	3	2	5	47
電話相談	191	186	217	215	175	180	184	171	175	204	154	138	2190
オンライン相談	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
個別支援会議	77	56	59	62	65	67	91	67	51	54	74	58	781
関係機関	174	114	109	75	73	101	144	129	110	134	108	141	1412
交流室	5	4	3	3	1	1	6	2	3	5	4	4	41
計	475	391	409	381	335	371	456	398	367	422	359	372	4736

表-3. 支援内容

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉サービスの利用等	281	216	193	149	137	190	255	214	190	233	180	243	2481
障害や症状の理解	13	12	3	6	13	4	10	8	5	15	8	8	105
健康・医療	39	23	33	32	33	30	62	51	37	48	37	52	477
不安の解消・情緒安定	154	157	173	187	162	146	159	138	142	162	124	109	1813
保育・教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族関係・人間関係	10	9	16	15	11	10	27	11	15	14	15	24	177
家計・経済	8	11	13	22	7	13	15	32	28	9	19	17	194
生活技術	11	5	2	5	3	5	16	14	21	6	8	9	105
就労	6	1	7	4	1	7	2	7	12	5	6	9	67
社会参加・余暇活動	2	2	2	6	1	1	1	2	5	7	3	6	38
権利擁護	0	9	0	2	0	0	0	1	1	0	1	5	19
その他	0	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	5
計	524	446	442	428	368	406	550	479	456	499	401	482	5481

表-4. 利用実人員内訳

(人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	249	3	0	9	235	21	2	2	1
障害児	1	0	0	0	1	0	0	0	0
計	250	3	0	9	236	21	2	2	1

表-5. 新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	23	7	1	2	5	0	0	1	39

表-6. 相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	48
-----	----

表-7. 個別支援会議の内訳

	ほっとすべーす主催	他機関主催	所内での事例検討	計
件数	8	13	760	781

2. 計画相談支援実施状況

表-1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者実人員	障害者	70	68	70	66	70	63	66	59	68	65	66	77
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	70	68	70	66	70	63	66	59	68	65	66	77

表-2. 支援方法

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	59	45	52	68	55	58	45	42	47	54	68	71	664
来所相談	1	3	4	1	2	0	2	0	0	3	4	2	22
同行	6	1	8	1	8	3	9	5	6	1	3	9	60
電話相談	112	110	112	109	120	124	92	88	83	121	103	127	1301
オンライン相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
個別支援会議	27	20	14	20	22	24	28	20	15	20	27	23	260
関係機関	222	203	165	242	236	148	176	131	152	181	168	215	2239
交流室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	427	382	355	441	443	357	352	286	303	380	373	447	4546

※交流室は委託相談支援実施状況にまとめて記入

表-3. 支援内容

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉サービスの利用等	348	320	294	359	349	297	290	247	263	299	316	378	3760
障害や症状の理解	14	8	4	15	12	7	9	10	8	5	13	18	123
健康・医療	79	66	105	115	93	70	82	55	69	83	84	93	994
不安の解消・情緒安定	74	52	76	66	58	62	61	48	59	87	84	104	831
保育・教育	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
家族関係・人間関係	32	44	36	25	36	17	19	20	28	23	26	36	342
家計・経済	22	36	31	43	21	10	23	12	16	18	29	12	273
生活技術	6	7	13	11	15	10	23	6	11	32	19	17	170
就労	23	19	12	17	41	23	7	9	10	9	11	12	193
社会参加・余暇活動	8	6	5	7	4	5	2	1	2	3	5	5	53
権利擁護	0	6	2	0	0	0	0	0	0	3	0	1	12
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	606	564	578	658	630	501	516	408	467	562	587	676	6753

表-4. 利用実人員内訳

(人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	88	5	0	4	86	0	1	1	0
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	88	5	0	4	86	0	1	1	0

表-5. 新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	3	1	0	2	2	0	0	0	8

表-6. 相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	8
-----	---

表-7. 個別支援会議の内訳

	ほっとすべーす主催	他機関主催	所内での事例検討	計
件数	77	11	159	247